

ヤクタズがもたらした地域の変化

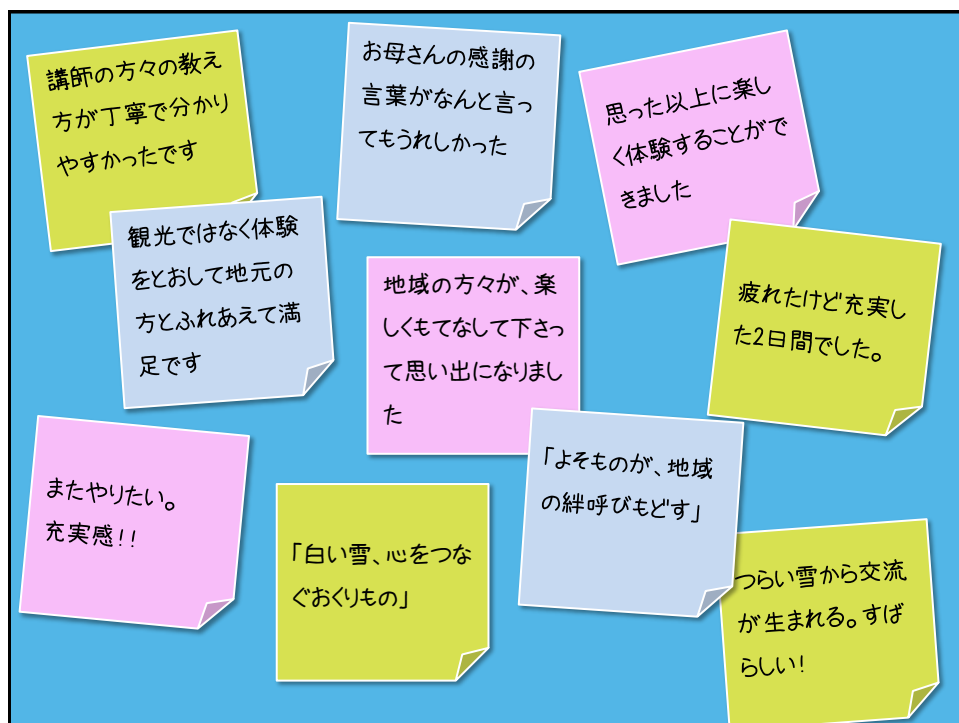
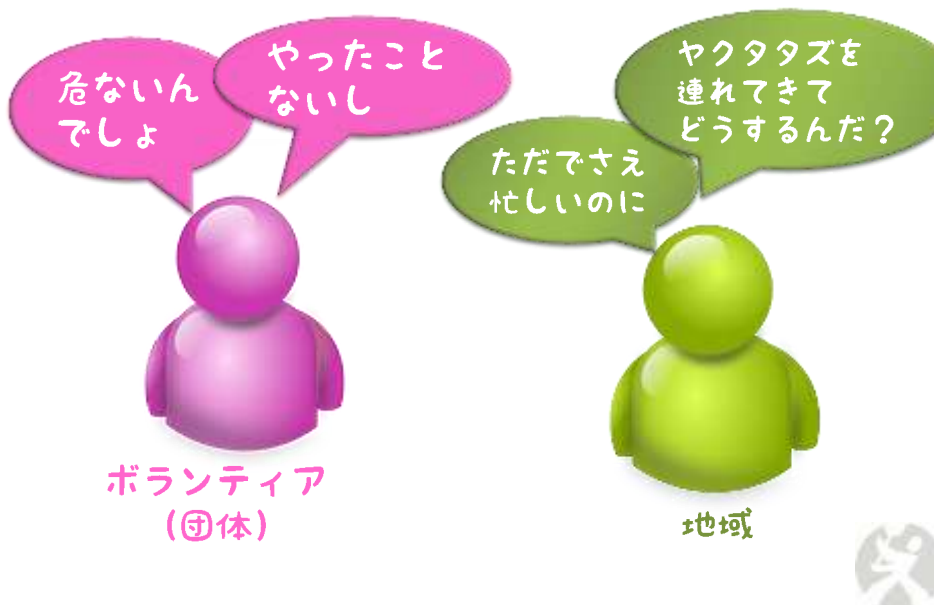
上村 靖司

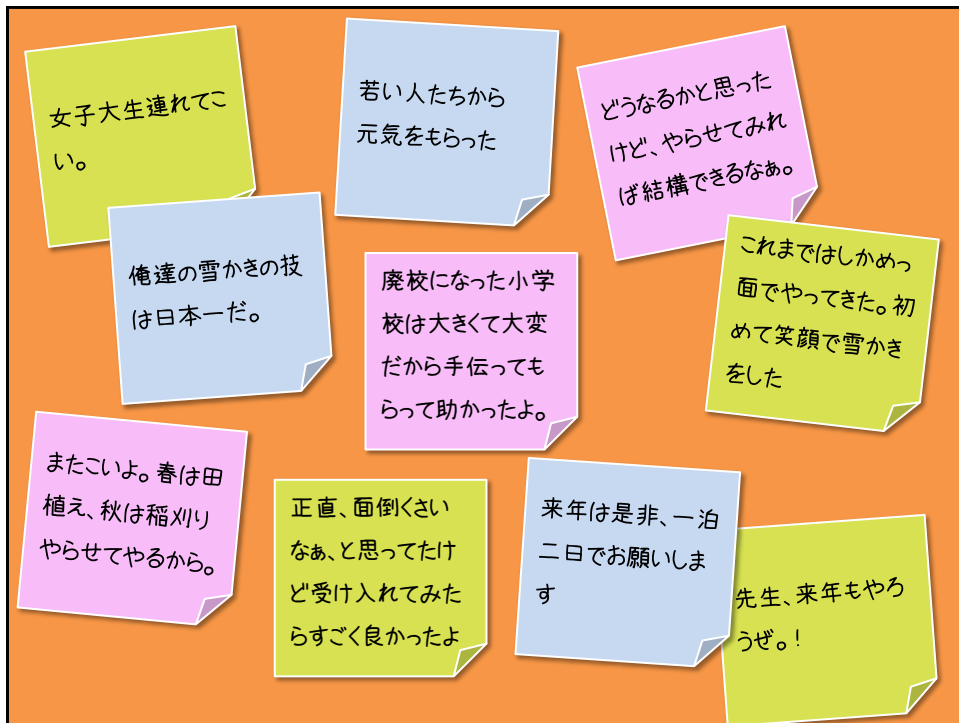
越後雪かき道場® 筆頭師範代

猫の手も
借りたときに
あなたの手



8年前・・・雪かき道場の当初の反応





イノベーションとは

(私の定義)

Innovation

昨日の「あり得ない」を
明日の「当たり前」に
変えること



ボランティアの広がりの社会的背景

▶ 公助の限界の露呈

- 高度経済成長の終焉
- 地方の疲弊

▶ 価値観の変化

- 物質的充足感の飽和
- 経済的な豊かさから、心の豊かさへ

▶ 支援を通じた自己肯定

- 承認欲求。成長実感。感謝こそが最高の報酬



手間が増える… でも役割分担すれば…

ボランティア

▶ 装備

- 防寒具・手袋・長靴

▶ 経験

- ほとんど無し

▶ 知識

- ほとんど無し

(心の声)

「そんなの来て大丈夫か？」
「ただでさえ忙しいのに」
「自分のことは自分でやるよ」
「来てくれるんならウチも」
「俺の仕事を取るな！」

受入れ地域

▶ ストック

- 除雪道具の準備
- 長靴・手袋の準備

▶ 受付

- 電話・名簿・保険？

▶ まかない

- お茶出し？飯？宿？

▶ 段取り・指導

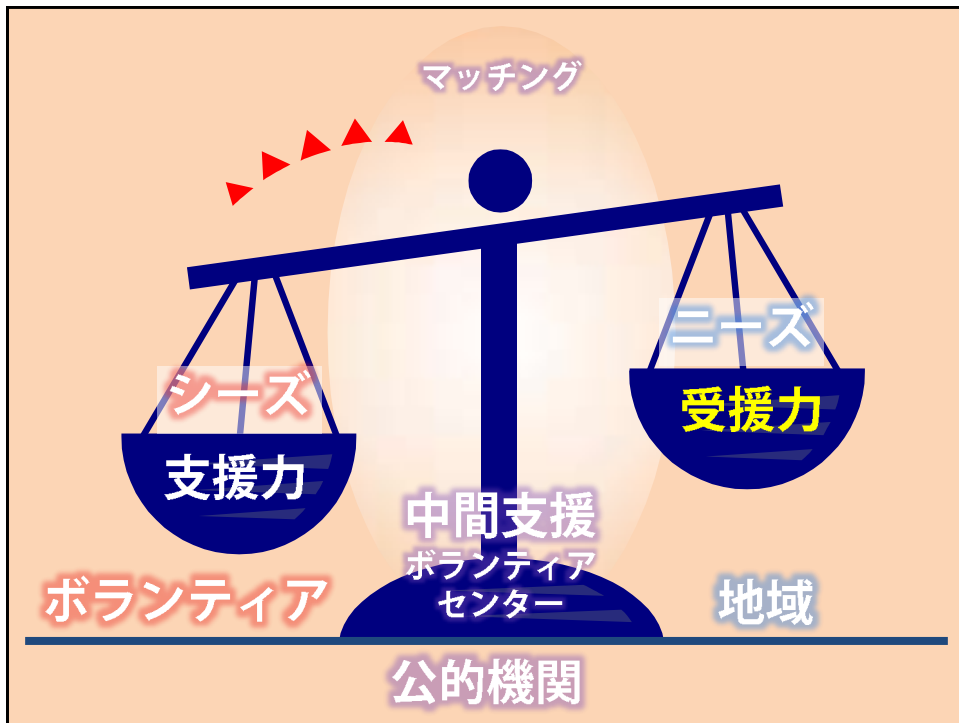
- 手順・説明・監督

ここだけ地域をお願いします。

お宿

お飯



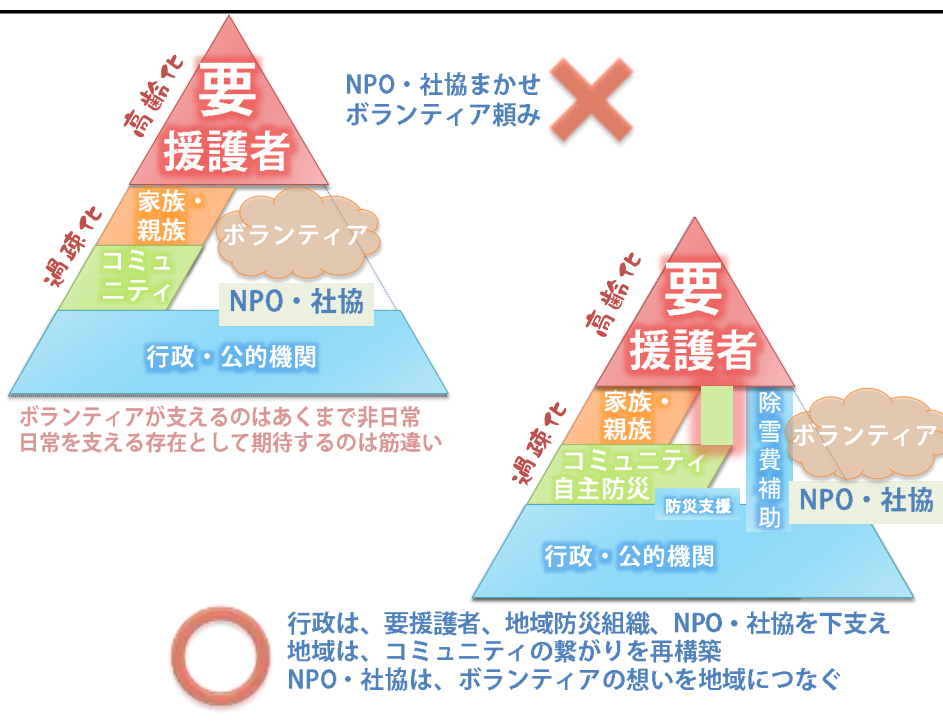
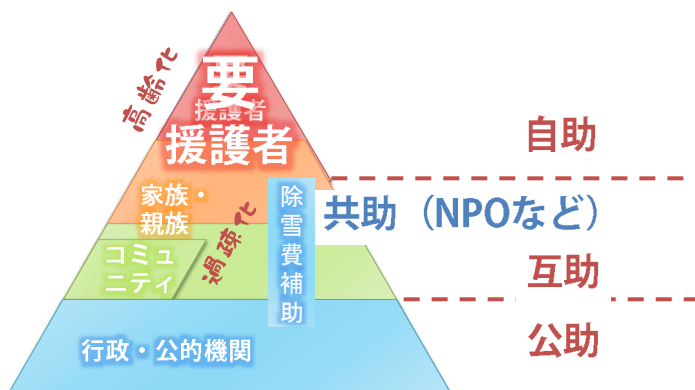


ボランティアの有効性

$$= \text{支援力} \times \text{受援力} \\ \times \text{コーディネート力}$$

一つでも欠けたらゼロになる

過疎化を支える公助・隙間を埋めるNPO



名人の
様にはいかない
ボランティア



ボランティアの価値

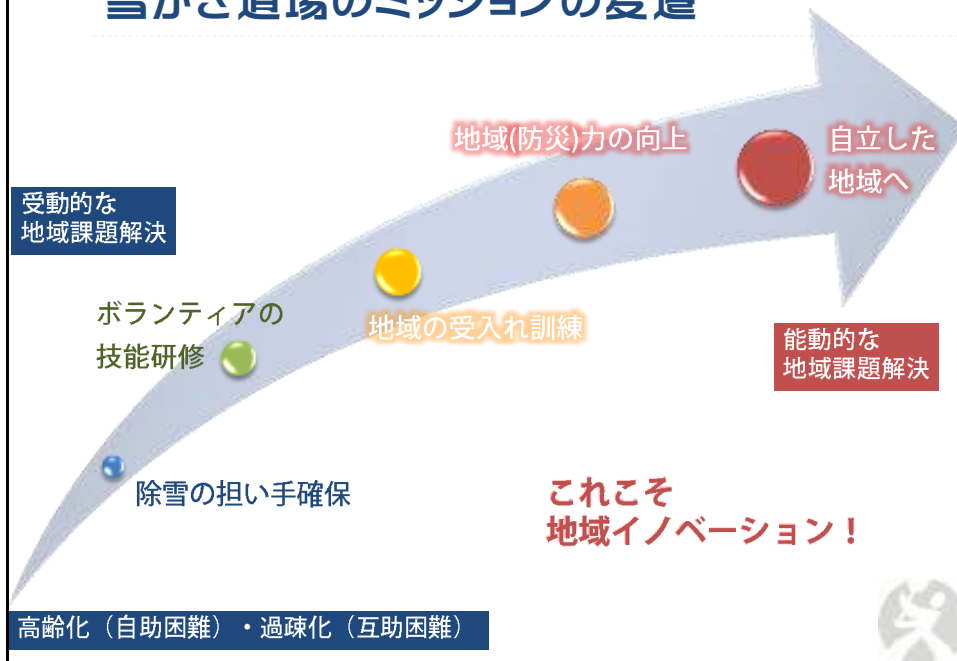
機能

除雪を担ってくれる
人手不足をおぎなう

存在

共に除雪してくれる
寄り添ってくれる

雪かき道場のミッションの変遷



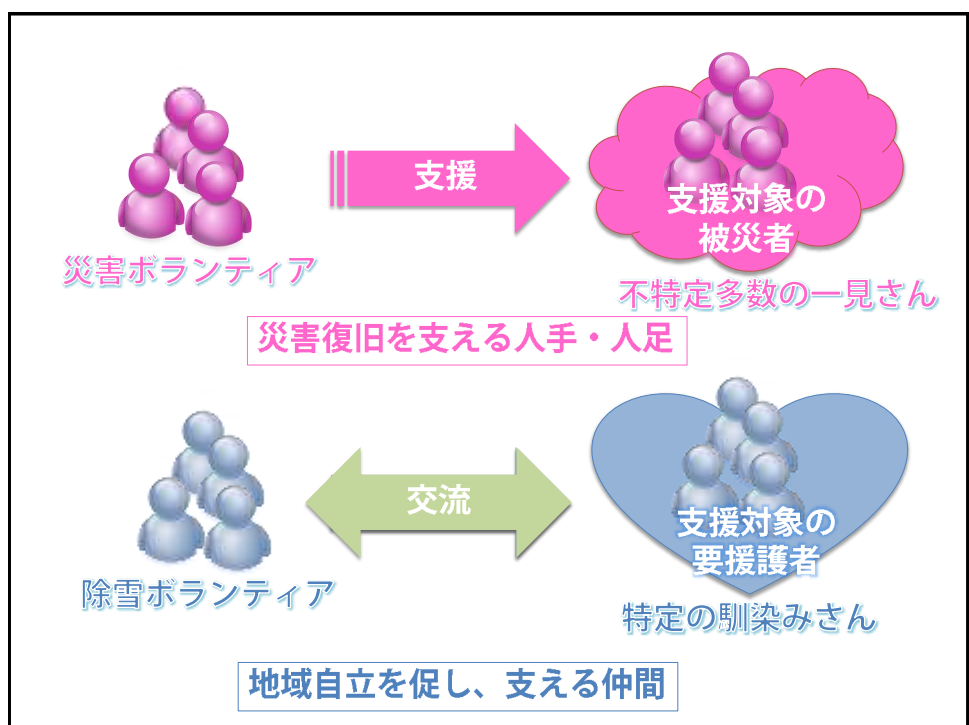
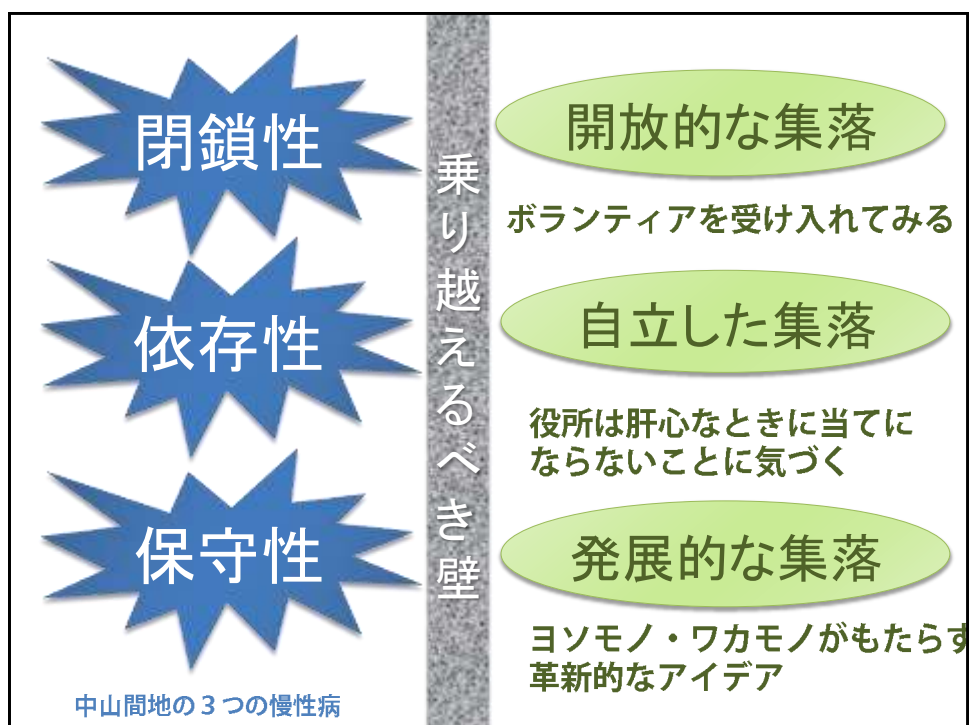
除雪ボランティアを契機とした地域づくり

▶ 見かけの目的

- ボランティアを受け入れること
- 受け入れる体制をつくること
(支えられる構図を作ってはいけない)

▶ 本当の目的は「地域の自立」

- 無い物ねだりからあるモノ探しへ
- 地域防災力＝受援力を高めること
＝地域力を高めること



ボランティア 心通わせ また来年

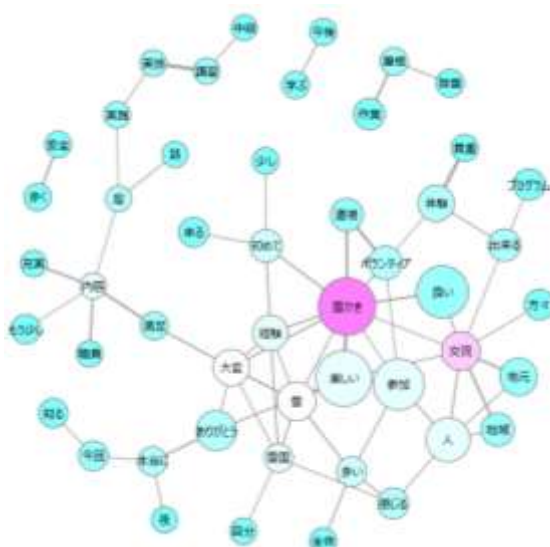


雪かき道場アンケート(自由回答欄)の分析

期間：2008年～2014年 実施回数：28回 回答数：418
集計箇所：アンケートの“運営等に関する感想、良かった点、改善した方がよい点、要望など”の部分

共起ネットワークの設定

語の最小出現数：10
強い共起関係ほど太い線
出現数の多い語ほど大きい円



	抽出語	出現回数
1	雪かき	106
2	楽しい	101
3	良い	90
4	参加	87
5	人	65
6	交流	49
7	雪	49
8	地元	45
9	体験	42
10	大芝	42

「楽しい」内訳

- 全体的に楽しい(52回)
- 人・交流(会)が楽しい(23回)
- 雪かきが楽しい(12回)
- その他(14回)